



4

陸上の走り幅跳びで、足の速さと全身を使ったダイナミックなフォームを武器に成長を続ける。仙台大在学時には日本学生選手権（インカレ）のほか、2023、24年には国内トップクラスの選手が集う日本選手権にも出場したジャンパー。同大大学院生として過ごす最後の年に「他を圧倒する成績で学生日本一を目指す」と闘志を燃やす。

石巻市南境出身。幼稚

仙台大大学院1年 本田 姫星さん(23) 〓石巻出身〓

陸上の走り幅跳びで、足の速さと全身を使ったダイナミックなフォームを武器に成長を続ける。仙台大在学時には日本学生選手権（インカレ）のほか、2023、24年には国内トップクラスの選手が集う日本選手権にも出場したジャンパー。同大大学院生として過ごす最後の年に「他を圧倒する成績で学生日本一を目指す」と闘志を燃やす。

輝き増し 幅跳び 頂点へ



自己ベスト更新に向け、コンディションを整える本田さん〓仙台大

元々は800㍎や1500㍎を走る中長距離の選手だったが、石巻好文館高に入学後、走り幅跳びに転向。2年時にはインターハイに出るなど注目を集めた。

兄と同じ場所で陸上に専念するために進んだ仙台大でも記録を向上させる。インカレでは2年時に5㍎84で9位、3年の時には自己ベストの6㍎03で4位と表彰台が現実味を帯びてきた。

4年時は目立った結果が残せず、卒業して公務員になることも考えた。それでも「悔いを残したまま辞めたくない。あと少し頑張ってみよう」と踏ん張り、大学院で続ける選択をした。院生1年目の昨季は春先から不調が続いたことで記録が伸びず、インカレでも

23位と振るわなかった。10月には過去にけがをした右太もも裏を痛めてしまい、現在はリハビリに専念する。

記録が伸びず落ち込みそうになる中、走り幅跳びの経験者である兄に動画を送ってアドバイスを求めたり、大学の施設を使ってフォームの研究をしたりするなど、自分を見つめ直す時間にかけている。

インカレを制すには6㍎50前後の記録が必要だとい、今シーズンが始まる春までは時間がある。「ここ数年で精神的に強くなれている。支えてくれる家族や陸上仲間のためにも、しっかり準備してみせる」と意気込む。

けがを治し、万全の状態で復帰できれば自己ベスト更新も見えてくる。悲願の日本一に向け「きらら」の名前のように、輝きが増す1年にするつもりだ。

(大谷佳祐)